



講演 市民、事業者、行政の連携で築く持続可能な社会

NPO法人いいだ自然エネルギーネット山法師事務局長
平澤和人

飯田市は平成8年にまちの将来像として「環境文化都市」を掲げ、市民、事業者、行政の協働によるまちづくりを目指し、環境保全活動を推進しています。これらを背景に、仲間たちとNPO法人いいだ自然エネルギーネット山法師を立ち上げ（法人化は平成16年）、会員の手作りによる活動拠点施設及びスローライフ体験館として化石燃料ゼロハウス「風の学舎（まなびや）」を平成14年から4年間掛け、建設しました。

経済活動の拡大やライフスタイルの変化の中、大量輸入に伴い、細る地域内経済、CO2の増加、森林・農地の荒廃、エネルギーリスクなどの環境問題の解決のため、資源を地球規模で大量に移動させるのではなく地産地消に軸足を置き、実践していくことが必要であると考え、私たちの目指す持続可能な地域とは「食糧、資源、エネルギーが持続的に再生産できる社会」としました。この社会を創るための活動テーマは、①エネルギーの地産地消により2050年に自然エネルギー社会を築くこと②地域の資源、技術、人材の継続的な確保で地域材による住宅づくり③都市と農村連携により、衣・食・住の地産地消で都市と田舎の暮らしを支え合うこととしています。

また、具体的な活動として①視察研修の受け入れ（年間約1000人）②自然エネルギー施設見学と環境学習講座③体験学習の受け入れ④普及啓発事

対談



平澤さんのお話は、気のあった仲間と時間をかけて計画する、効果の見える施設を建設し、運営する。少しずつ焦らずに作っていく。飯田は狭い土地柄なので行政は市民寄りであることから、市民活動は活発である。環境問題に皆さんの関心も高い。したがって、行政が市民活動を支える仕組みが整っている。環境文化都市を目指している。こういった体制は市民と行政が地域の特性を考えながら時間をかけて育んできたことにより形作られたものであるとのことでした。

内山さんからは、共通の目的を共有し、特性を活かしてゆく、それぞれの役割を明確にし取り組む、そして常に見直すということを繰り返すことが大事ではないかといった内容でした。

まさに、地域と行政の協働によって乗り越えてきた様々な問題についてのお話を伺うことができました。（市民の森ながのチームリーダー堀池政史）

今回の対談はコーディネーターというより、ながの環境パートナーシップ会議「市民の森ながの」のリーダーとして行政や地域の皆さんとの協働のあり方について大変参考となりました。

内山二郎氏プロフィール
フリージャーナリストとして活躍され、県民協働を進める円卓会議委員や県民協働推進委員長を歴任

平澤和人氏プロフィール
飯田市役所の職員を平成20年に退職、その後NPO法人いいだ自然エネルギーネット山法師の事務局長に就任、体験交流施設「風の学舎」を運営

業（講演会、セミナー、南信州竹筒祭り「キャンドルナイト」⑤南信州フォーラム都市農村交流事業⑥大豆人プロジェクト（大豆栽培と味噌作り）⑦森集人プロジェクト（森林資源の活用「薪・炭焼き」）などを、他団体と協働・連携しながら行っています。

地方は、人口の減少、少子高齢化、過疎化が進み、自治体の財政が逼迫しています。行政だけに頼ってもダメで、住民自らが、自然・文化・人などの地域に或る資源を最大限活用することに

より環境問題の解決と地域の活性化を図ることが重要です。取り組み自体を都市部や日本全体が抱えている課題の解決に資するものにするので、広く共感を得て、地域に人的・物的資源を呼び込むことができます。このことが、わたしたちの目指す持続可能な地域づくりに繋がっていくものと考えています。

（平澤和人氏講演用パワーポイント資料引用 文責渡辺）